



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する

TPOにあった服装や言葉遣いとは？

昨日、1年生の校外学習が終了しました。各学年の実施時期は異なりましたが、それぞれ（3年修学旅行、2年宿泊学習）の成果と課題を明らかにして、普段の学校生活に活かしていきましょう。



さて、5月27日

（月）より、制服の夏服への移行期間が始まります。この機会に、TPOに合った服装、言葉遣いについて、考えてみましょう。

ご家庭では、お子様の服装、言葉遣いはいかがでしょうか。“最近、派手な服装で出かけるようになった”とか“言葉遣いが悪くなった”等々。こんなことはありませんか。TPO（時と場所、場面）に応じた服装、言葉遣い、言語環境を整えましょう。

学校においても、基本的なあいさつ“おはよう、さようなら、ありがとう、すみません”や服装、言葉遣いができるように指導しています。ご家庭でもよろしく願いいたします。

「学年担当制」って何？

本校では「学年担当制」を導入しています。これは、学級担任を1人に固定せず、複数の教職員が学年（学級）を担当する方法をいいます。その理由の1つとして、本校教職員の人事異動の規模の影響があります。毎年、年度末人事異動により、本校では半数程度の教職員が入替わります。

そこで、この体制を導入し、同一学年には、本校に複数年数継続して勤務している教職員と、1年目の教職員を配属するように工夫しています。日々の短学活や道徳の時間等は、交替制です。

これにより、教職員の人事異動による生徒の不安等を少しでも和らげるとともに、複数の教職員が多面的な生徒理解を通して、生徒を見守ることで、個に応じ

た指導や支援の充実につなげたいと考えています。

これまでの「固定」した担任制では、学年（学級）の全てを1人の担任に委ねる面が強く、生徒や保護者にとっての学級の居心地具合は、担任に左右される傾向にありました。また、学級内で課題が発生した場合、“生徒や保護者の願いに応えたい”という思いによって、担任が必要以上に、その課題を抱え込んでしまう状況も生まれていました。

つまり、担任が自分の学級に対して、責任を強くすることで、課題を共有しにくい状況や、協働を必要としない、学年（学級）の風土を生み出してきました。

「学年担当制」では、給食や道徳の時間、総合的な学習の時間等において、今まで以上に、複数の教職員が生徒と関わります。生徒の変化やSOSのサインにいち早く気づくことができ、課題を抱えている生徒の情報を、学年や学校全体で共有することができます。

例えば、「いじめ」への対応では、複数の教職員が状況を共有し、迅速に相談することで、早期発見・早期解決にもつながり、開かれた学年（学級）の風土が醸成されると考えます。

さらに、生徒にとっても多くの教職員との関わりを通して、自身の価値観を広げられるメリットがあります。生徒が複数の教職員と話をする機会が増え、自分が相談したい教職員に、より気軽に相談することができるようにもなります。本校では「きずなの日」を「相談の日」と称して、全校生徒が、本校教職員の誰とでも相談できる取り組みを始めています。

このような「担任を固定しない」学年担当制を導入する教育委員会や学校は、全国的にも増えていきます。ただ、その基盤となるのは、教職員の連携、チームワークです。これが上手くいかなければ、全く意味を持たないものにもなります。その点、本校では、連携・協働を密にして対応しております。

保護者の皆様には、本校の取り組みをご理解いただき、ご支援をお願いいたします。何か気になる点がありましたら、中学校までご連絡ください。